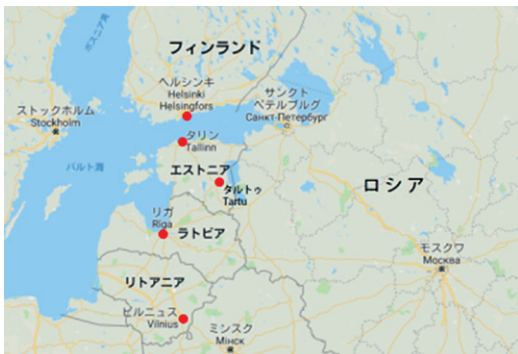


## フィンランド・バルト三国図書館訪問記

堤 正典

2019年4月より在外研究で、主としてモスクワを拠点として研究活動を行っている。モスクワでの生活に慣れた5月の終わりから、今度はロシアの隣国に赴き、それぞれの国立図書館や大学図書館を訪問して、研究にかかわる資料を閲覧している。ここでは、2019年7月末までに訪問した図書館について報告する。



関係諸都市 (Google マップ一部改変)

最初に訪問したのはフィンランドのヘルシンキ中央図書館Oodiである。2018年12月に開館したばかりの新しい図書館で、印象的な形の大きな建



ヘルシンキ中央図書館 Oodi

物の中にはヘルシンキ市民ならずとも、外国人も自由に使うことができる開放的な空間である。無料で使用できるWi-Fiが完備され、自分のパソコンを持ち込んで作業ができる。

また、ヘルシンキでは、ヘルシンキ大学図書館にも出向いた。こちらも2012年に開館した比較的新しいもので、大学構成メンバーでなくとも自由に使うことができ、オンラインで登録すれば、電子書籍の閲覧もできる(オンライン登録は現地に行かなくとも可能である)。Wi-Fiも使えないかと探したところ、私のパソコンはすでにeduroamにつながっていた。書庫にも自由に入ることができ、その書籍も自由に閲覧することができた。なお、ヘルシンキ大学は神奈川大学の学術協定校である。



ヘルシンキ大学図書館

次に、6月後半にエストニアのタリンを訪れた。タリンにはエストニア国立図書館がある。こちらは1918年設立という100年を超える歴史をもつ。登録がなくとも入館することができ、開架書籍の閲覧は自由である。また、無料で登録して入館証を作ることもできる（外国人の場合、パスポートが必要）。登録すればオンラインの各種サービスを受けることもできる。



エストニア国立図書館

エストニアでは、国立図書館の他に、タリン大学の二つの図書館（Academic LibraryとResearch Library）も訪問した。前者は大学本部キャンパス内にあるが、後者は市内の別の場所に所在する。どちらも登録なしで入館し、開架書籍は自由に閲



タリン大学  
(Academic Libraryは奥の濃い灰色の建物にある)



タリン大学 Research Library

覧できる。ただし、訪れたのが6月で大学は夏休みに入っており、これらの図書館は休館期間に入る直前であったため、継続して訪れて詳しく蔵書等を検索することはできなかった。

また、タリンを訪れた際に、タルトゥへ足を延ばし、タルトゥ大学図書館も訪問した。タルトゥ大学は1632年に開設され、ソビエト時代はソビエト記号論の牙城として知られる。タルトゥ大学図書館も自由に入館でき、開架図書の閲覧も自由である。さらに、eduroamを用いてネット上で蔵書検索をしたら、たまたま見たい書籍が見つかった。図書館員に所在を尋ねると、書庫にあると言う。そして、なんと書庫のその書籍のある書棚まで連れて行ってくれた。書庫は大きな部屋がいく



タルトゥ大学図書館

つもあり、確かに初めて図書館を訪れた人間が書籍の番号でその所在を見つけるのは大変そうであったが、わざわざ連れて行ってくれるとまでは思わなかった（もしかすると夏休みで学生の多くは不在で、図書館員も比較的手が空いていたからかもしれないが）。書庫まで連れて行ってもらった後、一人で書庫を見学したが、言語学・ロシア語学関係の書籍も大量に所蔵されていた。タルトゥ大学も本学の学術協定校である。

7月に入って、ラトビアの首都リガを訪れ、ラトビア国立図書館を訪問した。こちらの図書館も1919年開設であるが、現在の建物は2014年にオープンした非常に現代アート風な建築である。こちらは、自分の持ち物は図書館に用意されている透明のバッグに入れ、その他はクロークかコインロッカーに預けなければならない。一時的な訪問者は一時入館パスを渡される。1階ロビーのリーダーにかざして、開架書籍が置かれている2階より上層に上ることになる。また、こちらでも外国人でも入館証を作成することができ、写真付きの入館証を無料で発行してもらえる。この入館証をもつ者もそれをリーダーにかざして開架書籍室に上る。リガ滞在中に何度も通ったが、土曜日は最上階の12階にある展望室に入れた。リガの街が一望できる（7月の日曜は休館であり、月曜は基



ラトビア国立図書館

本的に1階の展示スペース以外は休館であった）。

タリンではラトビア大学の図書館がいくつかあるが、あいにく夏休み中で完全休館のところもあり、部分的なサービスのみを行っているところがほとんどであった。開館しているいくつかを見学させてもらった。なお、ラトビア大学も神奈川大学の協定校である。



ラトビア大学

7月の後半にリトアニアの首都ビリニュスにあるリトアニア国立図書館を訪問した。こちらも1919年開設である。ここでは3ユーロで入館証が作成できる（オンラインでも登録できるようだが、私は図書館の受付で登録したため、外国人の場合の手続きの詳細は確認していない）。登録すれば、こちらでもオンラインでのサービスも受けられ



リトアニア国立図書館

る。

ビリニユスでは、ビリニユス大学中央図書館も訪れた。ビリニユス大学は1579年に設置された東欧ではもっとも古い大学のひとつである。こちらでは入館証の作成に4.5ユーロ、登録（3カ月または12カ月、およびどちらかの期間の延長）にも料金が必要である。ただし、研究者であることが証明できる書類があれば登録料は免除となる。私は大学の在籍証明書を持っていなかったことと、スケジュール的にそう何度も訪れることができないことで、入館証作成・登録は行わず、無料で見学だけさせてもらった（なお、図書館を含めて大学全体を見学するには有料の見学ツアーに申し込まなければならないようである）。



ビリニユス大学図書館がある建物

ビリニユスでは、ビリニユス大学と並んでもうひとつの本学の学術協定校であるニコラス・ロメリス大学も訪れた。ビリニユスの中心部からバスで20分から30分ほどの郊外にある。図書館を見学させてもらったが、こちらは社会科学系中心の大学なので、私が必要とするような書籍はあまり見当たらなかった。しかし、大学は緑の木立を背景にした場所にあり、とても良い雰囲気であった。ビリニユス大学のような古い建物が並ぶのとは好対照に現代的な建築の大学である。



ニコラス・ロメリス大学  
(図書館はこの写真の一番奥にある)

今回、5月の終わりから7月という、まさに白夜の期間にこれらの都市を訪問して、図書館を訪れ、利用させてもらった。夜遅くまで開館している図書館もあったが、閉館時間までいてもまだ外は明るい。あいにく大学図書館は休館も多かったが、それらも含めて一通りの見学はできたと思うし、利用方法の確認はできた。どの図書館も外国人でもかなり自由に利用できることが印象に残った。この時期はバカンスシーズンで、これらの都市はロシアからを含め多くの家族連れ等（日本人もほんの少し）でにぎわっていたが、それを尻目に図書館や書店をまわるのはちょっと奇妙な経験であった。

ところで、もちろんモスクワにもいくつも図書館がある。もっとも有名なのがロシア国立図書館であろう。4700万点を超える資料が収蔵されているという巨大図書館である。実は、この図書館の入館証は作ったものの、まだほとんど利用していない（パスポートとハガキ大の申請書の記入で、無料で写真付きの入館証が発行された）。今後はモスクワの図書館も十分に利用することになるだろう。